

介護実習の内容及び特徴

1. 介護実習の目的

教科「介護実習」においては、福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域における継続した生活を支援する知識と技術を身に付け、サービス利用者主体の生活支援に必要な資質・能力を育成することを目的とする。

- ①介護実習Ⅰにおいては、多様な介護の場における実習において、対人援助に必要とされる基礎的・基本的なコミュニケーション技術や介護技術に基づき、サービス利用者や家族とのより実践的なコミュニケーション能力及び応用力のある介護技術を高める。
- ②介護実習Ⅱにおいては、サービス利用者一人一人の個性や生活リズムを尊重した個別ケアの実践を中心に、一定期間継続した介護実習を行い、サービス利用者が望む継続的な生活や自己実現に向け生活課題に応じた介護過程の実践ができる能力を身に付ける。

2. 介護実習の目標

多様な場における介護実習や個別ケアに関する実習、コミュニケーションや介護技術などについて実践的・体験的な学習活動を行い、地域における継続した生活を支援することを理解するとともに関連する技術を身に付け、介護実践を担うために必要な資質・能力を身に付ける。

(1) 介護実習Ⅰ（多様な介護の場における実習）

サービス利用者の生活の場として、居宅サービスを中心とする多様な介護の場における実習。利用者の理解を中心とし、利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働やチームケアの理解、基本的な介護技術の実践等を行うことに重点を置く実習。

- ①利用者の状況や心身の状態に応じたコミュニケーションを図る。
- ②基本的な介護技術の実践を行う。
- ③介護予防や自立生活支援について理解する。
- ④多職種協働やチームケアの重要性を学ぶ。

(2) 介護実習Ⅱ（個別ケアのための継続した実習）

一つの施設・事業等において一定期間以上継続して行う実習。個別ケアの実践を中心に介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を継続的に行うことに重点を置く実習。

- ①個々の利用者の生活背景や障害の状態、生活課題などについて把握する。
- ②介護職に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて個別ケアを実践する。
- ③利用者の自立生活を支援し、生活の質を高めながら介護過程を展開する。
- ④多職種連携やチームケアについて学ぶことで、介護職としての役割について理解する。

3. 各学年の実習目標と内容

第1学年

(1) 介護実習 I

目 標	項 目	内 容
通所施設の役割について理解する。	オリエンテーション ・施設・職員 ・利用者の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の設置目的と沿革・関連事業所等 ・建物について（周辺環境と施設設備） ・職員について（職員構成と勤務内容） ・利用者について（定員と現員、要介護度、障害の状態、入所期間等） ・利用者の生活について（日課と行事等）
通所施設を利用する利用者を理解する。	高齢者の理解 ・身体的、形態的变化及び心理的特徴 ・高齢者の生理的機能低下に伴う健康上の問題 ・居宅サービスの場における理解	<ul style="list-style-type: none"> ・予備力の減少、防衛力や回復力の低下、適応力の低下等 ・様々な急変・急病が起こる頻度が高いこと等 ・通所介護、通所リハビリテーション利用者の理解
利用者とのコミュニケーションを図る。	介護におけるコミュニケーションの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を築くための傾聴と共感の態度や言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションなど基本的なコミュニケーション ・記録のとり方
介護職員等の業務内容と介護方法を体験的に理解する。	介護職員等の業務内容の理解 基本的な介護技術の体験 ・居住環境の整備 ・感染予防 ・移動の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を支援する人々の理解 ・介護職の業務内容の見学 ・ベッドメイキング ・感染予防の基礎知識と対応 ・車いすでの移動・歩行介助・安楽な体位 ・体位変換（上下・水平移動 仰臥位→側臥位→端座位→立位）

(2) 介護実習Ⅱ

目 標	項 目	内 容
入所施設の役割について理解する。	オリエンテーション ・施設・職員 ・利用者の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の設置目的と沿革・関連事業所等 ・建物について（周辺環境と施設設備） ・職員について（職員構成と勤務内容） ・利用者について（定員と現員、要介護度、障害の状態、入所期間等） ・利用者の生活について（日課と行事等）
入所施設を利用する利用者を理解する。	高齢者の理解 ・身体的、形態的变化及び心理的特徴 ・高齢者の生理的機能低下に伴う健康上の問題 ・施設サービスの場における理解	<ul style="list-style-type: none"> ・予備力の減少、防衛力や回復力の低下、適応力の低下等 ・様々な急変・急病が起こる頻度が高いこと等 ・特別養護老人ホームや老人保健施設利用者の理解
利用者とのコミュニケーションを図る。	介護におけるコミュニケーションの基本 介護過程における情報収集と経過記録	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を築くための傾聴と共感の態度 ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション ・記録のとり方 ・利用者の状況の把握 ・会話記録シートの作成
介護職員等の業務内容と介護方法を体験的に理解する。	介護職員等の業務内容の理解 基本的な介護技術の体験 ・居住環境の整備 ・感染予防 ・移動の介護 ・食事の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を支援する人々の理解 ・介護職の業務内容の見学 ・記録物「介護職等の業務内容」作成 ・ベッドメイキング ・室内外の清掃、整備 ・ベッド周辺の整頓 ・シーツ交換 ・寝具の整理整頓 ・感染予防の基礎知識と対応 ・車いすでの移動・歩行介助・安楽な体位 ・体位変換（上下・水平移動 仰臥位→側臥位→端座位→立位） ・リラクゼーション技法 ・食事の準備配膳 ・食事、湯茶の介護 ・片付け ・水分補給
多職種連携の必要性について理解する。	チームケアの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を取り巻く多職種連携の実際

第2学年

(1) 介護実習 I (第1学年の内容を充実させ、次の内容を実施する)

目 標	項 目	内 容
認知症高齢者について理解を深める。	認知症高齢者の理解 居宅サービスの場における理解	<ul style="list-style-type: none"> ・中核症状の理解 ・周辺症状の理解 ・通所介護、通所リハビリテーションを利用する認知症利用者の理解
利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションを図り、良い関係を築く。	利用者の状況や状態に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者とのコミュニケーション ・プロセスレコード
介護職員の役割を理解し利用者の状況や状態に応じた介護を行うことができる。	身じたくの介護 移動の介護 食事の介護 入浴・清潔保持の介護 排泄の介護 レクリエーション 緊急時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・整容 ・口腔ケア ・衣服の着脱 ・移乗 (車いす～ベッド、ポータブルトイレ～ベッド) ・ストレッチャーの介助 ・食事介助 ・誤嚥の防止 ・脱水の予防(水分補給) ・入浴介助 ・部分浴の介助 ・清潔保持の介助(清拭) ・排泄介助 ・尿器・便器における介助 ・頻尿・尿失禁への対応 ・レクリエーションの見学 ・リスクマネジメントの理解
多職種協働やチームケアの重要性について理解する。	多職種協働 チームケア	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカンファレンスの見学 ・サービス担当者会議の見学

(2) 介護実習Ⅱ（第1学年の内容を充実させ、次の内容を実施する）

目 標	項 目	内 容
認知症高齢者について理解を深める。	認知症高齢者の理解と介護 ・施設サービスの場における理解	<ul style="list-style-type: none"> ・中核症状の理解と日常生活の自立支援 ・周辺症状の理解と対応 ・特別養護老人ホーム・老人保健施設・介護医療院の認知症利用者の生活の理解と自立生活支援
利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションを図り、良い関係を築く。	利用者の状況や状態に応じたコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者とのコミュニケーション ・失語症に応じたコミュニケーション ・聴覚障害者とのコミュニケーション ・プロセスレコード
介護職員の役割を理解し利用者の状況や状態に応じた介護を行うことができる。	身じたくの介護 移動の介護 食事の介護 入浴・清潔保持の介護 排泄の介護 レクリエーション 安全の確保 社会生活の拡大 緊急時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・整容 ・口腔ケア ・衣服の着脱 ・移乗 (車いす～ベッド、ポータブルトイレ～ベッド) ・ストレッチャーの介助 ・食事介助 ・誤嚥の防止 ・脱水の予防（水分補給） ・入浴介助 ・部分浴の介助 ・清潔保持の介助（清拭） ・排泄介助 ・尿器・便器における介助 ・頻尿・尿失禁への対応 ・レクリエーションの企画と実施 ・バイタルチェック ・リハビリテーションの理解とリハビリテーション活動への支援 ・心肺蘇生
利用者の個別ニーズに対応した適切な介護計画が立案できる。	介護計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集と分析（アセスメント） ・介護計画の立案
多職種協働やチームケアの重要性について理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカンファレンスの見学 ・サービス担当者会議の見学

第3学年

(1) 介護実習 I (第2学年の内容を充実させ、次の内容を実施する)

目 標	項 目	内 容
施設の役割について理解する。	オリエンテーション ・施設・職員 ・利用者の概況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の設置目的と沿革・関連事業所等 ・建物について（周辺環境と施設設備） ・職員について（職員構成と勤務内容） ・利用者について（定員と現員、要介護度、障害の状態、入所期間等） ・利用者の生活について（日課と行事等） ・地域における施設の役割
利用者を理解する。	居宅サービスの場における理解	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム、小規模多機能型居宅介護、障害者福祉施設利用者の理解 ・肢体不自由者の生活の理解 ・聴覚言語障害者の生活の理解 ・視覚障害者の生活の理解 ・内部障害（内臓機能障害）者の生活の理解 ・知的障害者の生活の理解 ・精神障害者の生活の理解 ・重複障害者の生活の理解
利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションを図りよい関係を築く。	利用者の状況や状態に応じた適切なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況や状態に応じた適切なコミュニケーション ・プロセスレコード
介護予防や自立生活支援について理解する	介護予防や自立生活支援についての理解	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の介護予防の実際 ・高齢者や障害者の自立支援の実際
介護における安全の確保について理解する。	介護における安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、安全対策、感染予防の実際
多職種協働やチームケアの重要性について理解する。	多職種協働やチームケアの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を取り巻く多職種協働やチームケアの実際 ・多職種の専門性の理解

(2) 介護実習Ⅱ (第2学年の内容をさらに充実させ、次の内容を実施する)

目 標	項 目	内 容
利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションを図りよい関係を築く。	利用者の状況や状態に応じた適切なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況や状態に応じた適切なコミュニケーション ・プロセスレコード
利用者の状況や状態に応じた個別ケアの実践	身体障害者の介護 <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者 ・聴覚言語障害者 ・視覚障害者 ・内部障害者 知的障害者の介護 精神障害者の介護 重複障害者の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由（運動機能障害）者の生活の理解 ・肢体不自由者の介護 ・聴覚言語障害者の生活の理解 ・聴覚言語障害者の介護 ・視覚障害者の生活の理解 ・視覚障害者の介護 ・内部障害（内臓機能障害）者の生活の理解 ・内部障害（内臓機能障害）者の介護 ・知的障害者の生活の理解 ・知的障害者の介護 ・精神障害者の生活の理解 ・精神障害者の介護 ・重複障害者の生活の理解 ・重複障害者の介護
医療的ケアについて理解する。	喀痰吸引 経管栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引及び経管栄養の実際（見学）
介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解する。	介護における安全の確保 介護におけるリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、安全対策、感染予防の実際 ・緊急時の対応
利用者の個別ニーズに対応した介護過程が展開できる。	介護計画の実施と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセスレコードの作成 ・介護計画の立案と実施 ・評価とモニタリング ・ケアカンファレンスの実施
多職種協働やチームケアの重要性について理解する。	多職種協働やチームケアの実際	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を取り巻く多職種協働やチームケアの実際 ・多職種の専門性の理解

4. 介護実習のスケジュール

(1) 第1学年

実習種別	実習施設（期間）
I	通所介護事業所・通所リハビリ事業所（9日）
II	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院（5日）

※事前指導・事後指導は介護総合演習で行う。

(2) 第2学年

実習種別	実習施設（期間）
I	通所介護事業所・通所リハビリ事業所（9日）
II	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院（13日）

※事前指導・事後指導は介護総合演習で行う。

(3) 第3学年

実習種別	実習施設（期間）
I	小規模多機能型事業所（3日） 障害者施設等（3日） グループホーム（3日）
II	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院（13日）

※事前指導・事後指導は介護総合演習で行う。